

# 第6次小坂町総合計画の策定について

～新しいまちづくりがはじまります～

総合計画は、町政における最上位計画であり、また、「町民参画による協働のまちづくりの設計図」としても重要な役割を担っています。

現在、“ひと”と“まち”が輝く 躍動する小坂～十和田湖と鉾山文化人と自然にやさしい環境が新しい時代を築く～を将来像として、「第5次小坂町総合計画」に基づき様々な政策が行われていますが、この計画が令和2年度で終了するため、将来に向けた新たな総合計画を策定する必要があります。

町民の代表の方々が町の将来についての意見交換を行いました

令和3度から令和12年度までの新しいまちづくり計画である「第6次小坂町総合計画」の策定にあたり、町民の代表者の方々と町の意見交換が始まりました。

令和元年度の意見交換は計3回開催され、町民の代表者等で構成される「まちづくり委員23人」と町内在住高校生の公募委員で構成される「まちづくり未来委員11人」が「福祉・健康」、「教育・文化」、「産業」、「生活・環境」部会に分かれ、主に総合計画の基本構想への提言と基本計画の施策へ町民の意見を反映させるため、「将来のまちがありたい姿・避けたい姿」についての意見交換を行いました。

「福祉・健康部会」では、ありたい姿として、「高齢者に生きがいがある町」、「挑戦している子どもがいて、見守る大人がいる町」、「子育てがしやすい町」、「情報発信に長けている町」他、避けたい姿として「高齢者が暮らしにくい町」、「子育てしにくい町」他、

「子育てしにくい町」他、があげられ町民と専門家の両目線から様々な意見が出されました。

「教育・文化部会」では、ありたい姿として、「伝統や文化が受け継がれる町」、「既存の観光資源と新しいことが一体化した町」、「イベント・行事が盛んな町」、「国際交流に積極的な町」他、避けたい姿として「少子化・人口減少により特色ある教育が失われる町」、「財政難により観光資源の維持・整備ができない町」、「民間の力によるイベント・行事が少ない町」

「高齢化により協会などの団体の維持ができない町」他、があげられ、教育環境や文化活動の維持に関する意見交換が行われました。

「産業部会」では、ありたい姿として、「最新技術を取り入れて農業の収益が良い町」、「何度も来たくなる町」、「食の町」、「働き口、働き方が選べる町」他、避けたい姿として「産業の担い手がいない町」、「働き口、働き方が選べない町」他、などがあげられ、産業・観光・農林水産業などの振興策について意見交換されました。

「生活・環境部会」では、ありたい姿として、「除雪対策に万全を期し、子どもも高齢者も安心して過ごせる町」、「地域で協力して防災体制を築ける町」、「自然環境と住民の利便性が調和した町」、「地域コミュニティが維持されている町」他、避けたい姿として「公共交通が少なく移動手段が限られた町」、「少子化・人口減少が進行している町」他、持続可能なまちづくりを目指すための意見交換が行われました。

令和2年度は、主に基本計画についての協議が行われる予定です。

